

独立準備の前に

動機をしっかりと固めよう

動機の強さは

将来にわたつての財産

きつかけ自体は
ささやかだつていい

独立をしたい気持ちはあつても、それによって生じるマイナスの可能性を想像し始めると、不安はつきない。その重さに打ち勝つ力が、動機である。つまり、「なぜ独立するのか」「なぜ独立したいのか」「なぜ独立できるのか」などに対する、自分自身の回答である。この回答がしっかりしたものになってくれば、独立を判断する勇氣も、それを準備するパワーも、その後の日々への自信も、自然とわき上がってくるはず。言い換えれば、動機が「信念」にまで高められればOKということだ。

もつとも、独立を考えるきっかけは、決して特別である必要はない。「予想以上に自分の仕事が評価された」「勤務先でつらい思いが続いた」「独立した人の話を聞いたら、自分でもやれそうだと思った」など、そんな、日常的なことを出発点にしてもいいのである。もちろん、壮大な理想の追求や社会的な義憤が契機でもいいし、一方、リストラや勤務先の倒産など、やむにやまれぬ事情であつてもいい。とにかく、独立の2文字が頭に浮かんだら、その可能性について考えてみて損はない。そのうえで本

フローを活用して
厳しめにチェックを

気になれるなら、今度は複数の視点で、自分自身を客観的にチェックしてみよう。

一方、元から独立志向が強い人も、同じように複数の角度で独立動機をチェックしてほしい。思い込みだけで独立を決めていた、などという気つきがあるかもしれない。どちらの人も、左に用意した「独立動機固めのためのフロー」を活用してみよう。フローには、あえて何重にも関門を設けてある。動機が弱いまま独立してしまうと、ピンチに遭遇した時、いとも簡単にギブアップ、という事態になりかねないからだ。

自分の独立資源を正しく認識しよう

仕組みがあつてこそ、
資源は資源足りうる

独立資源とは、独立を実現するための資源であると同時に、独立を継続させ、事業を進展させていくための資源でもある。もつとも、資源は、そのままの状態では役に立たない。石油に例えれば、それは、燃焼させることで、初めて動力資源になるわけだ。これを独立に置き換えてみよう。

では、具体例を挙げてみよう。Aさんは資格はないが、経理実務25年の実績を持つ。だが、リストラされてしまった。そこで他社に転職しようとするがダメ。しかし、この実績を経理部

員を雇えないような小さな会社に対して、ひとり分の給料の10分の1、20分の1の料金で提供してみる。作業を絞れば件数もこなせる。結果、経理代行サービスの誕生である。もうひとつ。Bさんは、駅から離れた住宅地に築35年の住宅を持つ。不動産として見れば価値は低い。が、飲食店開業を目指し、この住居を使うことにする。結果、「レトロ感あふれる、隠れ家的な店」の誕生である。

よく探せば、資源は必ず見つけれられる

このように、独立のための資源は、実は、それを何に對して、どう使うかさえイメージできれば、想像以上に自分の身近なところに豊富に存在するものなのだ。

「独立するならば、経験のある業界がいいのか、それとも、未経験でも、やりたいことをやったほうがいいのか」と悩む人は決して少なくない。一般に「未経験業種は難しい」といわれるが、必要を学習を重ねれば、決

して無理ではない。むしろ部外者だから気づいたアイデアを生かせば、強い事業を生み出すことも可能だ。

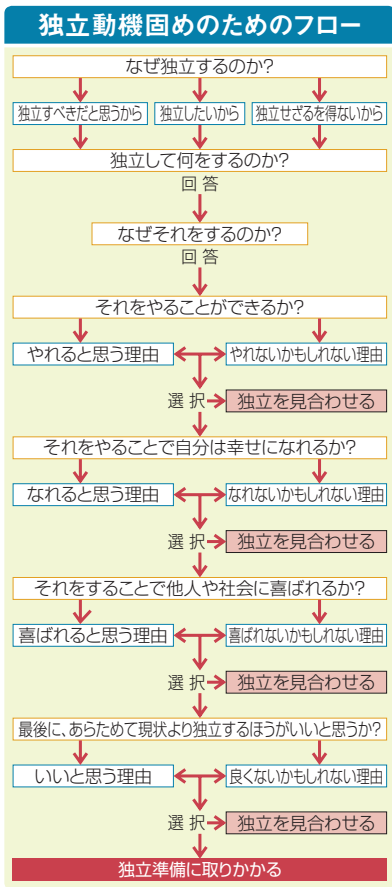
さて、現在と同じ業種や近い分野で独立する際は、他者との差別化が甘くなりがち。同じ業界でも、既存のものとう一味違えるのかを、ぜひ追求してほしい。

独立分野を探ろう

また、未経験分野の場合、FC（フランチャイズチェーン）システムを活用する方法もある。FCとは、本部企業が、業界経験のない

人でも事業を成功させられるノウハウを、パッケージにして提供する仕組みである。したがってFC加盟を検討する時は、どの本部を選ぶかが重要になる。

さて、現在と同じ業種や近い分野で独立する際は、他者との差別化が甘くなりがち。同じ業界でも、既存のものとう一味違えるのかを、ぜひ追求してほしい。



家族の了解を得よう

独立を考える人が、男性でも女性でも、年輩者でも若者でも、家族がいるのなら、必ず意向を告げ、了解を得ることに努めよう。

特に既婚者など生活・生計を共にする相手のいる人は、独立の目的や内容を十分説明したうえで、それが家族の生活にどう影響するのか、相手と共に検討しよう。

点・悪い点」を互いがわかったうえでチャレンジしたほうが、後にトラブルになる可能性も少ない。一回で説得しようなどと思わず、じっくりと話し合うこと。また、その事業に家族と一緒に取り組んでみる、という考え方もある。

収入は増えるのか減るのか？ 収入や支出のタイミングはどう変わるのか？ 家族と過ごす時間は増えるのか減るのか？ 住む場所にも影響するのか？ 家の中のレイアウトは？ 家や育児、親の面倒は？ などなど。どれもが両者にとって理想的な答えになるのは難しいことだが、「良い

いようで狭い。残した禍根が、いつ、どんなところで災いになるか、わかったものではない。しかし、やむにやまれずケンカ別れということもある。そうやってしまった時は、悪感情を引きずらず、反発心を独立準備のエネルギーに転化して頑張ろう。

勤務先に了承してもらおう

勤務先を辞めるのは本人の自由。だが、独立のために勤務先を退職するのなら、適当な理由を付けたりせず、堂々と独立の意向を上司に告げ、できる限り勤務先の業務に支障をきたさないよう配慮したうえで辞めよう。独立することは孤独になるということではない。むしろ「独りで立つ」という困難を選択するのだから、それを支えてくれる人は、ひとりでも多いほどいいわけである。

その貴重な支援者に元の勤務先がなってくれるケースは意外と多い。うまくいけば顧客や仕入れ先、業務

提携先になってくれることもあるだろう。そうはいかなくても情報交換の相手として協力し合うこともできる。最悪、目に見えるメリットが何もなくたって、デメリットを抱えるよりはましだ。とにかく、わざわざ敵をつくるような辞め方は避けたい。世間は広

元・悪い点」を互いがわかったうえでチャレンジしたほうが、後にトラブルになる可能性も少ない。一回で説得しようなどと思わず、じっくりと話し合うこと。また、その事業に家族と一緒に取り組んでみる、という考え方もある。

元の勤務先に返却・提出すべきもの

1. 社員証、名刺、バッジ、社章など
2. 健康保険証
3. 組合員証
4. 制服や鍵など勤務先から貸与されたもの
5. 退職金所得受給に関する申告書

元の勤務先から受け取っておくべきもの

1. 厚生年金手帳
2. 雇用保険被保険者証
3. 離職票
4. 給与所得の源泉徴収票
5. 退職所得(退職金)の源泉徴収票

許認可や届出などが必要な業種(一部)

業種	区分	窓口	業種	区分	窓口
飲食店	許可	保健所	警備業	指定	警察署
喫茶店	許可	保健所	宅地建物取引業	免許	都道府県
食品等の販売業	許可	保健所	通訳案内業	免許	都道府県
食肉販売業	許可	保健所	薬局	許可	都道府県
魚介類販売業	許可	保健所	旅館業	許可	都道府県
菓子製造業	許可	保健所	建設業	許可	都道府県
惣菜製造業	許可	保健所	在宅介護サービス	認可	都道府県
ペットショップ	届出	保健所	各種学校	認可	都道府県
コインシャワー	届出	保健所	路外駐車場	届出	都道府県
理容院・美容院	確認	保健所	ビル清掃業	登録	都道府県
クリーニング店	確認	保健所	電気工事業	登録	都道府県
生菓子製造業	報告	保健所	旅行代理店(国内旅行)	登録	都道府県
ゲームセンター	許可	警察署	旅行代理店(国外旅行)	登録	運輸局
マージャン店	許可	警察署	酒類販売業	免許	税務署
アンティークショップ	許可	警察署	米穀販売業	登録	市区町村
リサイクルショップ	許可	警察署	ガソリンスタンド	許可	消防本部
中古車販売業	許可	警察署	運送業	許可	陸運支局
金券ショップ	許可	警察署	自動車整備業	認証	陸運支局
道路使用の各種営業	許可	警察署	一般労働者派遣業	許可	厚生労働省
深夜酒類提供飲食店	届出	警察署	特定労働者派遣業	届出	厚生労働省

予定業種の許認可などを調べよう

具体的準備を進める前に調べておきたいのが、予定事業に関する行政の許認可などである。

左の表に許可や届出などの区分と受付窓口を記したが、これはほんの一例。許認可等必要業種は1000

件を超えている。また許可条件などは自治体や地域によって異なるものもある。大丈夫だろうとタカをくくらず、確認すべき。その結果、許可や届出などが必要

が、これはほんの一例。許認可等必要業種は1000の中に組み込んでおこう。

中には取得まで長期間かかるものもあるので気をつけたい。また、無免許・無許認可が発覚した場合は罰せられるケースもあるし、そもそもその事業自体が違法というケースもあり得る。十分に注意しよう。

果、許可や届出などが必要であれば、それも準備活動の中に組み込んでおこう。